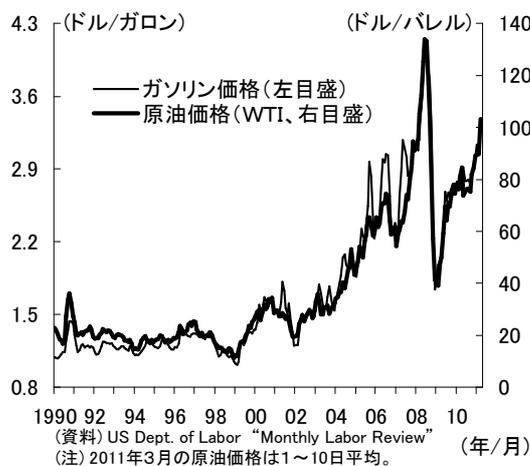


## ガソリン価格上昇で米国消費の翳りが視野

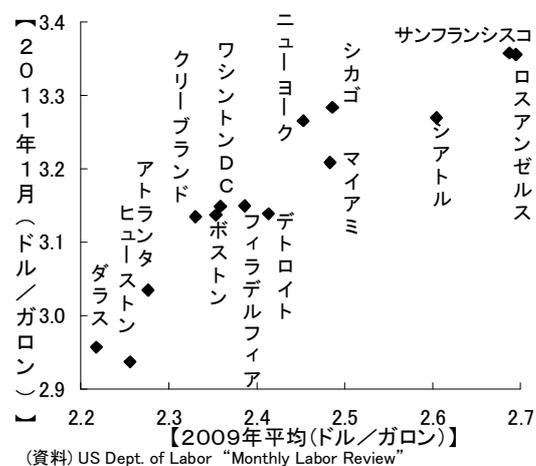
～ 現下の原油価格は従来、個人消費を屈折させる水準 ～

- (1) このところガソリン価格が再び上昇（図表1）。直近の2011年1月には3.14ドル/ガロンと08年10月以来の高値。地域によっては1ガロン当たり3.36ドルに（図表2）。
- (2) 米国は典型的な車社会でガソリン価格の上昇は家計を直撃。すなわち、価格が上昇しても消費量を減らせず、ガソリン価格が上昇した分、同支出額が増加して可処分所得が減少し、個人消費が抑制されるとの見方が一般的。その点を確認するために、前回ガソリンが大幅に値上がりした07年以降について、小売売上高に占めるガソリン販売額シェアの推移をみると、11%までの局面では実質個人消費は緩やかな増勢を持続。しかし11%を超えてシェアが拡大した08年初以降、実質個人消費は減勢に転換（図表3）。なお、08年10月以降、ガソリンが値下がりして販売額シェアは11%水準を切って減少したものの、個人消費は09年春まで落ち込み。しかし、その主因はリーマン・ショック。
- (3) 一方、総小売売上高に占めるガソリン販売額シェアとガソリン価格は長期に互り連動して推移（図表4）。それは、価格の変動によってガソリンの消費量が変動しにくい、いわゆる弾力性の低さが現時点でも変化せず持続していることを示唆。
- (4) そうしたなか、一段のガソリン価格の上昇は、08年と同様、個人消費にマイナスに作用する懸念大。ちなみにガソリン価格と原油価格の連動性、およびガソリンの価格と販売額シェアとの連動性を前提にWTIで本年3月上旬の原油価格103ドル/バレルを引き直すと、ガソリン価格は3.35ドル/ガロン、販売シェアは11%と試算。消費屈折が視野に入った可能性。

【図表1】ガソリン価格と原油価格の推移



【図表2】都市別ガソリン価格



【図表3】実質個人消費とガソリン売上シェア



【図表4】ガソリン価格とガソリン売上シェア

